JAPAN TEACHERS' UNION ―教え子を再び戦場に送るな―

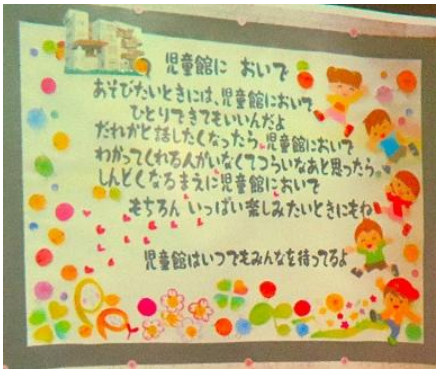
JTU ほっきゅう NO.45

2026. 1. 7 北九州市教職員組合にゅうす

第2回教職員セミナー「ねぇ聞いてっちゃ」開催報告①

12 月 6 日（土）13 時 30 分より、第 2 回教職員セミナーを開催しました。今回は、徳力南児童館で 30 年以上にわたり多くの子どもたちとかかわってこられた児童厚生員・山下里美さんをお招きしました。聞き手として、人権・部落問題学習にも長く携わってこられ、市同教事務局として活躍された溝井正俊さんとの対談形式でお話を伺いました。

■ 子どもたちを支える児童館の役割



山下さんからは、徳力児童センターとして北九州市直営でスタートした児童館の歴史や、現在の福祉事業団による運営など、施設の歩みをご紹介いただきました。

児童厚生員として、日々児童館を訪れる子どもたちと関わりながら、合同キャンプやデイキャンプなど様々な行事をはじめ、人権・平和学習など、多様な活動を工夫しながら続けてこられたとのことです。また、「親の愛情に恵まれない子どもこそ大切にしたい」という思いで日々向き合う中で、子どもたちから新たな気づきを得ることも多かったと語られました。

■ 今の子どもたちが抱える“見えにくさ”

近年は、昔のような分かりやすい“やんちゃさ”ではなく、子どもたちの本音が見えにくくなっていると山下さんは感じているそうです。

子どもたちに携帯電話やお金を持たせる保護者は増えましたが、保護者の目線が子どもに向けられていないケースも多く、愛情不足の「子どもたちの本音をどう引き出すか」が課題だと話されました。

時には、祖父母に代わって学校の連絡や生活面を支えることもあったとのこと。また、結婚差別に悩む若者に寄り添い続けたエピソードや、後悔する子に「気づけたから偉い」と言葉をかけ励まし続けた経験など、一人一人との深い関わりが紹介されました。

■ “しつこく関わる”ことの大切さ

溝井さんからは、「子どもたちは本音を言えた瞬間に癒やされる」というお話があり、その本音を受け止める大人の存在の重要性が強調されました。また、「教師に何ができるか、学校に何ができるかを考えること。そして地域とつながるには足を使うしかない」と、家庭訪問の大切さについて力強いメッセージがありました。かつて関わった子どもから「先生、しつこかったもん」と言われたエピソードも紹介され、粘り強く寄り添う姿勢が信頼につながることが語られました。

■ 子どもとの距離感と“ほめる”力

昨今は子どもと大人の距離感が難しく、抱きしめたりスキンシップをとることが難しい状況にある中で、山下さんは「保護者にほめ方を伝える」ことを大切にしているそうです。日常的に声をかけ、認められることで、子どもたちは「見てくれている」という安心感を得られるとのことでした。

NO.46 につづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！
///JTU 北九州市教職員組合 〒802－0072 小倉北区東篠崎３丁目4－1
E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp 北九州教育会館 TEL（093）953－0381